安堵屋敷遺跡

縄文時代晩期の遺跡

安堵屋敷遺跡は昔から広い範囲で縄文時代の遺物が見つかっており、よく知られている遺跡でした。

この遺跡は近くを流れる添市川の影響をうけた自然堤防状の微高地の上にありましたが、昭和55年の添市川の河川改良工事区に遺跡の一部がかかったため、岩手県埋蔵文化財センターが発掘調査を行いました。

調査の結果、今から3,000年～2,300年前の縄文時代晩期の遺跡であること分かりました。発見された遺構は、住居跡が２棟、埋設土器が５個、ピットが５つ、炉跡状遺構が１つ見つかっています。見つかった２棟の住居跡は上下に重なるように発見されたことで、この集落では長い間この土地で生活していたということが考えられています。

遺物は縄文土器、土製品、石器、石製品などがありましたが、なかでも縄文土器が大量に出土しており、550個をこえる数の土器が復元されました。また祭祀に用いられたと考えられるミニチュア土器や土偶などが見つかっているため、縄文時代晩期の中心的な集落であったと考えられます。